



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年2月12日

上場会社名 株式会社うかい 上場取引所 東
 コード番号 7621 URL <https://www.ukai.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 紺野 俊也
 問合せ先責任者（役職名） 専務取締役（氏名） 松崎 城康 (TEL) 042(666)3333
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	10,325	1.3	471	△20.0	470	△17.4	73	△22.6
2025年3月期第3四半期	10,196	0.8	589	△29.3	569	△30.1	95	△86.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2026年3月期第3四半期	13.13		13.13					
2025年3月期第3四半期	16.98		16.98					

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	10,739	4,794	44.6
2025年3月期	10,901	4,769	43.7

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 4,793百万円 2025年3月期 4,767百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期(予想)				15.00	15.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,390	△0.5	495	31.4	485	△30.7	32	△76.6	5.70

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期3Q	5,616,940株	2025年3月期	5,611,540株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年3月期3Q	1,443株	2025年3月期	1,443株
------------	--------	----------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年3月期3Q	5,613,023株	2025年3月期3Q	5,607,861株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(会計上の見積りの変更)	7
(セグメント情報等)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期損益計算書関係)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2025年4月1日～2025年12月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで緩やかな回復基調を維持しました。一方で、物価上昇の長期化による個人消費への影響に加え、米国金融政策や中国経済の動向、地政学的リスクなど、先行きには不透明感が残る状況となりました。

当社が属する外食産業においては、人流の回復が定着するなかでインバウンド需要が引き続き堅調に推移し、都市部を中心に来店機会の増加が見られました。一方で、慢性的な人手不足による人件費の高止まりや原材料価格の上昇といった構造的なコスト負担は依然重く、収益構造には引き続き慎重な経営判断が求められる状況が続いております。また、価格改定により客単価は上昇傾向にあるものの、物価高の長期化を受けて立地や業態によって消費者の慎重姿勢に差が生じており、価格感度の高い顧客層の動向には引き続き留意が必要な状況です。このような環境下、当社を取り巻く外食市場では、市場動向を見極めながら、柔軟かつ機動的な対応力が求められております。

当社は「長期経営構想2035」および「中期経営計画2030」に基づき、既存事業の収益性向上と新たな成長機会の創出に取り組んでおります。当第3四半期連結累計期間においては、中期計画の重点領域である新業態開発や人材育成に向けた基盤整備を着実に進めるとともに、2025年10月1日付で文化事業『箱根ガラスの森』を承継先へ移管し、事業ポートフォリオの再構築を推進いたしました。こうした経営環境のもと、当第3四半期連結累計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高は、文化事業『箱根ガラスの森』を承継先へ移管したことによる減収影響があったものの、既存事業の堅調な推移により10,325百万円(前年同期比1.3%増)となりました。

利益面では、増収効果および原価率の改善により売上総利益が増加しましたが、店舗退去に伴う原状回復費用の見積り変更により資産除去債務を追加計上したこと、当該追加部分に係る償却費が一時的に増加した結果、営業利益は471百万円(同20.0%減)、経常利益は470百万円(同17.4%減)となりました。

また、契約期間満了に伴い閉店を決定した『東京 芝 とうふ屋うかい』に係る店舗閉鎖損失引当金239百万円を特別損失として計上した一方、文化事業の承継に伴い特別利益を計上しております。こうした一時的な要因の影響もあり、四半期純利益は73百万円(同22.6%減)となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

〔レストラン事業部〕

レストラン事業部は、外食市場が堅調に推移するなか、各ブランド・各店舗の特色を活かした販促活動を継続し、来店機会の創出に努めてまいりました。また、食に対するニーズの多様化が進む環境下において、最上のおもてなしの質を維持・向上するため、コース内容やサービス料を含む価格体系の見直しや、運営体制の適正化にも取り組んでおります。

こうした取り組みはお客様一人おひとりの体験価値の向上につながり、売上の底上げに寄与しました。一方で、既存店舗の来客数は全体として前年を下回り、さらに2024年11月末の『うかい竹亭』閉店により、当該店舗分の売上は期中で消失しております。

こうしたマイナス要因はあったものの、客単価の上昇が売上を下支えし、レストラン事業部の売上高は8,428百万円(前年同期比3.9%増)と増収での着地となりました。

〔物販事業部〕

物販事業部は、既存店舗が概ね堅調に推移するなか、今期強化している催事販売や卸販売、EC販売など、製菓部門を中心とした販売チャネルの拡大を進めてまいりました。さらに、2025年11月からは西日本エリアでのブランド発信力向上を目的とした百貨店での長期催事へ出店しており、こうした取り組みに加えて前年9月に開業した『アトリエうかい グランスタ東京』の新店効果も売上を押し上げております。

一方で、既存店舗の一部では新規出店等による需要の分散もあり前年を下回ったほか、『アトリエうかい たまプラーザ』が2024年8月末の契約満了に伴い閉店した影響もありました。

こうした結果、物販事業部の売上高は1,344百万円（前年同期比9.3%増）と増収での着地となりました。

〔文化事業部〕

文化事業部につきましては、2025年10月1日付で文化事業『箱根ガラスの森』を他社へ事業承継したことにより、当第3四半期連結累計期間における計上対象期間が前年同期と異なっております。

以上の結果、文化事業部の売上高は552百万円（前年同期比35.6%減）となりましたが、これは主として事業承継に伴う計上期間の相違によるものです。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産、負債及び純資産の状態は以下のとおりです。

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ162百万円減少し、10,739百万円（前事業年度比1.5%減）となりました。主な要因は、現金及び預金が1,533百万円減少したことを中心に、減価償却費の計上等により建物（純額）が216百万円、商品及び製品が124百万円それぞれ減少したことによるものです。一方で、資金運用により有価証券が1,000百万円、建設仮勘定が新工房建設計画に係る設備投資の進捗を主因として547百万円それぞれ増加しております。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ187百万円減少し、5,944百万円（前事業年度比3.1%減）となりました。主な要因は、借入金総額が331百万円減少したことや、その他流動負債が140百万円減少したこと等の減少要因が、店舗閉鎖損失引当金が209百万円増加したことや、資産除去債務が（流動負債および固定負債合計で）187百万円純増加したこと等の増加要因を上回ったことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ25百万円増加し、4,794百万円（前事業年度比0.5%増）となりました。主な要因は、新株式発行に伴う資本剰余金の19百万円の増加およびその他有価証券評価差額金の16百万円の増加があった一方、配当金の支払いにより繰越利益剰余金が10百万円減少したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の通期の業績につきましては、2025年11月7日に公表いたしました「2026年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」の業績予想から変更はございません。

今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,413,926	3,880,788
売掛金	722,577	798,634
有価証券	—	1,000,000
商品及び製品	182,708	58,436
仕掛品	28,008	41,682
原材料及び貯蔵品	339,308	353,844
その他	189,944	214,965
貸倒引当金	△15	△16
流動資産合計	6,876,459	6,348,337
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,818,420	7,754,514
減価償却累計額	△6,608,173	△6,759,832
建物(純額)	1,210,247	994,681
土地	568,897	568,897
建設仮勘定	20,845	567,916
美術骨董品	195,849	193,849
その他	3,361,396	2,949,752
減価償却累計額	△3,051,892	△2,661,413
その他(純額)	309,504	288,338
有形固定資産合計	2,305,344	2,613,683
無形固定資産	39,219	30,802
投資その他の資産		
投資有価証券	136,230	166,125
関係会社株式	—	10,000
繰延税金資産	510,331	530,708
敷金及び保証金	1,016,928	1,023,168
その他	16,721	16,316
投資その他の資産合計	1,680,210	1,746,318
固定資産合計	4,024,774	4,390,804
資産合計	10,901,234	10,739,141

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	286,481	404,507
短期借入金	750,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	241,420	218,610
未払法人税等	122,573	130,897
賞与引当金	130,403	28,444
店舗閉鎖損失引当金	30,012	239,022
資産除去債務	52,815	—
その他	1,435,539	1,294,695
流動負債合計	3,049,244	2,916,177
固定負債		
長期借入金	1,493,255	1,335,000
退職給付引当金	1,204,818	1,067,952
資産除去債務	384,900	625,284
固定負債合計	3,082,974	3,028,236
負債合計	6,132,218	5,944,413
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	2,891,811	2,911,035
利益剰余金	1,745,891	1,735,451
自己株式	△3,409	△3,409
株主資本合計	4,734,293	4,743,077
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	33,487	50,416
評価・換算差額等合計	33,487	50,416
新株予約権	1,234	1,234
純資産合計	4,769,015	4,794,728
負債純資産合計	10,901,234	10,739,141

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
売上高	10,196,136	10,325,271
売上原価	4,428,000	4,299,066
売上総利益	5,768,135	6,026,205
販売費及び一般管理費		
販売促進費	181,020	170,767
役員報酬	129,480	141,418
株式報酬費用	9,068	14,179
給料及び手当	1,782,537	1,754,977
賞与引当金繰入額	19,193	25,928
退職給付費用	52,737	57,625
福利厚生費	295,545	281,690
水道光熱費	208,662	172,503
消耗品費	187,049	182,245
修繕費	133,639	118,244
衛生費	176,043	178,102
租税公課	59,978	49,956
賃借料	713,852	755,362
減価償却費	237,587	536,544
その他	992,491	1,115,539
販売費及び一般管理費合計	5,178,887	5,555,086
営業利益	589,247	471,119
営業外収益		
受取利息	3,775	9,770
受取配当金	2,901	8,908
その他	14,442	18,245
営業外収益合計	21,119	36,925
営業外費用		
支払利息	29,473	27,498
その他	11,655	10,111
営業外費用合計	41,129	37,610
経常利益	569,237	470,433
特別利益		
固定資産売却益	—	200
事業譲渡益	—	※1 24,320
特別利益合計	—	24,520
特別損失		
固定資産除却損	6,426	4,220
固定資産売却損	222,185	—
減損損失	79,016	15,453
店舗閉鎖損失	48,582	2,578
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	239,189
特別損失合計	356,211	261,441
税引前四半期純利益	213,026	233,512
法人税、住民税及び事業税	40,747	187,418
法人税等調整額	77,052	△27,618
法人税等合計	117,799	159,800
四半期純利益	95,227	73,711

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

第2四半期(中間期)会計期間において、店舗の原状回復義務として計上していた資産除去債務について、退去時に必要とされる原状回復費用の新たな情報を入手したことにより見積りの変更を行いました。この見積りの変更による増加額を変更前の資産除去債務残高に237,749千円加算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,108,221	1,229,657	858,257	10,196,136	—	10,196,136
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,108,221	1,229,657	858,257	10,196,136	—	10,196,136
セグメント利益	1,242,830	88,053	100,230	1,431,114	△841,866	589,247

(注)1. セグメント利益の調整額△841,866千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	
減損損失	32,615	2,176	44,225	79,016

当第3四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,428,200	1,344,566	552,503	10,325,271	—	10,325,271
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	8,428,200	1,344,566	552,503	10,325,271	—	10,325,271
セグメント利益	1,263,623	116,164	14,697	1,394,485	△923,365	471,119

(注)1. セグメント利益の調整額△923,365千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	レストラン 事業部	物販 事業部	文化 事業部	
減損損失	15,453	—	—	15,453

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、会社法第447条第3項の規定に基づき、2025年6月27日開催の取締役会決議により同年8月5日付で資本金の額の減少を実施しており、資本金9,612千円をその他資本剰余金に振り替えております。

また、2025年6月27日開催の取締役会決議に基づき、同年8月5日付で当社の取締役（社外取締役を除く。）に対する譲渡制限付株式報酬として新株式の発行を行っており、資本金及び資本準備金が9,612千円それぞれ増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金は100,000千円、資本剰余金は2,911,035千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

※1 事業譲渡益

当第3四半期会計期間において、当社が運営していた「箱根ガラスの森美術館」における文化事業を会社分割（簡易吸収分割）したことにより発生したものであります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	315,785千円	575,917千円